

# 災

害現場報道で、煤にまみれて働く消防士たちの姿を目にするとき、ああ、崇高な男というのはこんな人たちだと、熱い思いがせりあがる。

消防魂、ということばを知った。たとえば中澤昭さんの「なぜ、人のために命を賭けるのか」(近代消防社)という消防士たちの死闘を描く本においては、その魂の中でこんな思いが燃えていることが伝わってくる。

「誰かがやらなくてはならないならば、俺がやろう」という使命感、他人のために命を賭けることで自分の生命の価値を見出す有意義感、そして生死を共にする仲間同士の強い信頼感…。

そんな消防魂をもつ男たちのなかでも、精鋭中の精鋭、と呼ぶべき集団がいる。

東京消防庁消防救助機動部隊、通称ハイパーレスキュー隊である。特殊な技術や能力をもつ隊員や装備で編成された、人命救助を目的とするスペシャルスト部隊。隊員は各消防署のレスキュー隊から選ばれた、いわばエリートである。しかし、危険手当など、つかない。「お金のことを言っていたら、この仕事はできません。プライドだけの、なんですよ」とは、かんで笑うのは、第二消防方面本部機動部隊の島田一郎部隊長(51)である。でも、命がけの仕事である。怖くはないのでしょうか? 「研修の時に徹底した訓練を受け、隊員は、隊長に何を命じられてもへいへい」と返事して従うこ

# Sanctuary of the Lost Samurai

中野香織の「落日のマッチョ」

## 使命感とプライドに命をかける 消防庁精鋭部隊のマッチョたち

猛火に飛び込む消防士、瓦礫の山から命を助け出すレスキュー隊。自らの命を守るのはトレーニングで鍛えた筋肉。これが正しいマッチョです!

Text by Kaori Nakano



中野香織 (なかの・かおり)

服飾史家・コラムニスト。1962年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得。英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆業に。著書に『着るものがない!』(新潮社)、『モードの方程式』(新潮社)など。

とを学びます。現場では、隊長の命令なら怖くない、と素直に行動できるようにするんです」洗脳すれすれかもしれないけれど、でも「瞬間行動をためらったばかりに取り返しがつかないことが起こる現場では、八行けVへよし!」の絶対的な信頼関係が、それこそ命にかかわる重要さをもつのだという。レスキュー活動は、隊長の絶対的指令のもとにおこなわれるチームワークでもある。



「だから逆に、隊員の時よりも、隊長の今のほうが怖いと思うことがあります」と島田部隊長。隊員にも聞いてみよう。「人のために死ななければならない」と、この仕事になる仕事をしたい」と、この仕事に就いた阿久沢太郎さん(27)。はじめて火の中に飛び込んだ時は、どんな思いでしたか? 「命じられたことをやるのに精一杯で。ただ残火処理ざんかしよりの際にさうきまで自分が立っていた場所が燃えてなくなっているのを見ると、その時になつて怖さを感じたり(笑)」映画『バックドラフト』を見て(一)消防官になろうと思つた鍛冶将行さん(32)。達成感は、どんな時に感じるのでしょうか? 「みんなで無事に帰ってくる事ができた時、です。僕自身、ひとり怪

我して救急車に乗っていった苦い経験がありますから」恋人や妻になるのも、心配が絶えず、相当な覚悟がいりますか? 「あ、妻も消防官です(笑)」消防士はみな昼も夜も消防士だというセリフが『バックドラフト』に出てくるが、彼らの生活を聞いてみると、そんな印象も受ける。第二消防方面の本部では、62人の精鋭部隊は3隊に分かれ、交替で寝泊りする。その間、食事の用意も掃除も隊員がおこなう。

出動のない時は、隊ごとに朝から夕方6時くらいまで訓練をする。多くの隊員は自主的に、夜中もトレーニングをするという。「ハイパーレスキュー隊の虎の穴です」と島田部隊長が案内してく

れたトレーニングルームには、鉄棒を組み立てた懸垂用具やロープをつけた巨大なタイヤなど、手作りのトレーニング用具がごろごろ。「ここで、夜、自分に足りない体力を補うのです。人の命を助けるためには、まず、自分の命を守らなくてはなりませんから」心底ほればれと聞いたその後、ほかの理由も知った。最近では体力をあまり要しないハイテク機材を使う訓練も多く、体力が有り余つてしまふ隊員が、夜中に懸垂をすることに…らしい。

そんなエピソードもまた頼もしく愛おしい。訓練所を後にする時、「想定外 注水厳禁」の貼紙を背景に敬礼して見送ってくれた部隊長に、最敬礼でおこたえました。



1 鎮火まで24時間かかった栃木県タイヤ工場火災(03年)。徹夜の戦いに疲れ果て、仮眠をとる消防士たち。2 & 3 日夜火災と戦い続ける男たちと消防士兄弟の葛藤を描いた名作『バックドラフト』(91年米)。4 新潟中越地震(04年)。2歳の優太君を92時間ぶりに岩の隙間から救出したのは、ハイパーレスキュー隊員と心音をとらえた電磁式人命探査装置だった。

Photos: Kyodo News, Zuma Press/PANEI.com, NANA